



金指駅は2つの鉄道の交換駅だった



金指駅は二俣線と奥山線の2つの鉄道のプラットフォームを持つ大きな駅であった。構内は軽便・SL・貨物車が行き交い、戦時中には物資の運搬の重要な駅として名を馳せていた駅でもあった。



住友セメント工場の輸送線



1954年には住友セメントの引き込み線が金指駅まで敷設されたことでさらに構内の規模は増していき二俣線の中で最も賑わいのある駅であった。

現在の金指駅



1964年に奥山線が廃止され、1984年に住友セメントの引き込み線も撤去されたことで金指駅の大きさは全盛期の4分の1程度になってしまい陶磁の賑わいは無くなってしまった。

金指駅敷地内の文化財



高架貯水槽
建設年 昭和13年頃
規模 水槽 外径4m 高さ2m40cm
全体 高さ6m80cm

鉄筋コンクリート造の高架貯水槽で内臓量は約18t。中央部に鉄管が残っており基礎部に揚水ポンプが付けられていた後が残存する。



上屋・プラットフォーム
建設年 昭和13年
規模 妻側 4m80cm 桁側 9m20cm

木造平屋建て、切妻、波型スレート葺の旅客上屋とプラットフォームが一体となっている。妻面の上部は居居た目張りとなり、腰板張り。上部はトラスを担ぎ、棟木、母屋、軒桁を支えている。

金指の歴史



近藤家の治世に代わり住民自身の方で商業の街として発展
日本一人口が少ない町として全国的に有名に(1099人)

金指駅が誕生(1938年)
二俣線全線開通(1940年)
住友セメントの引き込み線開通(1954年)

引佐高校と三ヶ日高校が合併し県立湖北高等学校が誕生